

救急基金だより

1分1秒を争う、いのちのために
救急基金

- 救急基金の歩み
- 寄附金募集事例紹介
 - ・氷見市消防本部
 - ・乙訓消防組合消防本部
- 平成19年度救急基金会計の決算
- 救急基金への寄附について



救急基金は、応急手当の普及など救急の振興のために活用されます。

財団法人 救急振興財団

救急基金の歩み

応急手当の普及へ向けて

救急救命士制度の発足とともに救急救命士の養成を目的として平成3年5月に設立された財団法人救急振興財団は、設立当初より12,800名の救急救命士を誕生させるなど、救急体制の充実及び応急処置による心肺停止傷病者の救命効果の向上に大きく貢献しています。

しかし、なお一層の救命効果の向上には救急救命士の現場到着前の一般住民による応急手当が重要であり、また、そのような応急手当の習得の要望も高まっています。

そこで、こうした課題に対処するために、財団法人救急振興財団では平成4年より、皆様から寄せられた寄附金を基金として積立、その運用益を用いて応急手当講習会

で使用する資器材の寄贈や応急手当の普及など、救急の振興に役立つ事業を行っています。

事業の概要

<平成5年度～平成8年度>

住民の要請に応じて消防機関が派遣する応急手当指導員を養成するための講習会の開催

<平成9年度>

寄附金募集用のポスター及び救急基金箱の作製

<平成10年度～平成19年度>

消防機関が住民向けに行う応急手当講習会で使用する資器材の寄贈

寄附金募集事例紹介

氷見市消防本部

氷見市は、富山県の西北部にあって能登半島の東側付け根部分に位置し、氷見海岸から富山湾越しに仰ぎ見る立山連峰の絶景と「氷見の寒ブリ」に代表される豊富な水産物が有名です。また近年では市内で温泉も湧出し豊かな自然に恵まれた町です。

氷見市消防本部は、そのような地元の住民の安全を守るべく1本部1署（氷見市消防本部および氷見市消防署）で管轄されています。管内面積は230.32km²で約55,000人の人口を擁しています。救急搬送において出動件数の内約66%は、60歳以上の高齢者が搬送されている状況になって

おり、高齢化社会が進行する中での応急手当における家庭や地域の役割は大きくなっています。そのような環境の中で、消防はもちろん住民の方も応急手当に高い意識を持っています。

氷見市消防本部は住民の方々に向けて氷見市の広報誌「広報 ひみ」やホームページ等で積極的に応急手当の講習会への参加を呼びかけ、平成18年度は81回開催し延べ1,617名の住民の方（地元の小中高生及び父兄会、婦人会や教職員など様々な方々）が熱心に講習を受講しました。

救急基金については、基金箱と新設の基金リーフレットを氷見市内の病院、ショッピングセンター、コンビニエンスストア、ドラッグストアに設置しています。毎年寄附を頂き心強い限りです。今後も管内の講習会や救急関連のイベント等でリーフレットを配布するなど積極的にPRすると力強いお言葉を頂き救急基金への理解が益々浸透することを期待するところです。



寄附金募集事例紹介

乙訓消防組合消防本部

京都市の西南部に位置する向日市、長岡京市、大山崎町の2市1町からなる乙訓消防組合消防本部は「長岡京」という都があった地など古来から歴史の舞台として登場し、また多くの竹林が残ることから、かぐや姫伝説の発祥の地と云われるなど四季折々の豊かな自然と歴史的遺産に恵まれた地域です。

消防本部では地域の応急手当の普及について熱心に取り組まれていて、応急手当の方法や普通救命講習会について、平成20年からホームページをリニューアルしてPRを行っております。昨年は131回講習会を実施し、2,633名の方が受講されました。

今まで応急手当講習の申し込みは企業や自治会などの団体での申し込みが主でしたが、2004年から自動体外式除細動器(AED)を用いた除細動(電気ショック)を一般市民が使用できるようになってからは主に主婦の方を中心に個人で申し込む方が増加しています。今年は個人向けの普通救命講習会の募集を年2回から6回に増やしましたが、募集するとすぐに定員が埋まってしまうほどの人気です。

この度、応急手当講習にお役立ていただ



きたくAEDトレーナー、心配蘇生訓練用的人形、講習テキスト等を寄贈させていただきましたが、住民の方のAEDの操作方法への関心は非常に高く、今回寄贈した資器材が大変役立っているとお話を伺うことができました。

また、管内の救急病院への新たな募金箱の設置にご協力いただけるなど、救急基金の募金活動にも積極的に取り組んでいただいております。

このように応急手当の普及や救急基金に積極的に取り組んでくださる消防本部や地域の皆様に心より感謝申し上げます。

皆様の寄附で購入しているもの



平成10年度より、皆様から寄せられた救急基金の運用益にて、

- ・心肺蘇生訓練用シミュレーター
- ・応急手当講習テキスト・DVD
- ・応急手当リーフレット付感染防止用シールド
- ・AEDトレーナー

を寄贈させていただいております。

これらは、各消防本部に寄贈され、一般住民向けの応急手当の講習会等で活用されています。



*過去の救急基金だより(No. 1~No. 8)につきましては、救急振興財団のホームページ(<http://www.fasd.or.jp>)の救急基金の項目の中に掲載しています。

■平成19年度救急基金会計の決算（単位：千円）

| 科 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 差 異 |
|--------------------|---------|-----------|-------|
| I 事業活動収支の部 | | | |
| 1 事業活動収入 | | | |
| ① 特定資産利息収入 | 933 | 1,125 | △ 192 |
| ② 寄附金収入 | 2,000 | 1,126 | 874 |
| ③ 雑収入 | 0 | 0 | 0 |
| 事業活動収入計 | 2,933 | 2,251 | 682 |
| 2 事業活動支出 | | | |
| ① 救急基金助成事業費支出 | 903 | 1,833 | △ 930 |
| 事業活動支出計 | 903 | 1,833 | △ 930 |
| 事業活動収支差額 | 2,030 | 418 | 1,612 |
| II 投資活動収支の部 | | | |
| 1 投資活動収入 | | | |
| 投資活動収入計 | 0 | 0 | 0 |
| 2 投資活動支出 | | | |
| ① 救急基金取得支出 | 2,000 | 1,126 | 874 |
| 投資活動支出計 | 2,000 | 1,126 | 874 |
| 投資活動収支差額 | △ 2,000 | △ 1,126 | △ 874 |
| 当期収支差額 | 30 | △ 708 | 738 |
| 前期繰越収支差額 | 631 | 1,074 | △ 443 |
| 次期繰越収支差額 | 661 | 366 | 295 |
| ※平成19年度末救急基金残高 | | 171,951千円 | |

救急基金へのご協力をおねがいたします

お申し込み方法

募金箱

設置場所 消防本部、市役所、病院など

郵便振替

口座番号 00140-4-758214

財団法人救急振興財団

手数料が無料となる専用用紙をお送りいたしますので
下記にお問い合わせください。

(財)救急振興財団 救急基金担当 TEL 042-675-9931



救急基金箱が破損等により使用できない場合などのお問い合わせは下記にお願いいたします。

救急基金だよりNo.9 [編集・発行] 財団法人救急振興財団事務局総務課

〒192-0364 東京都八王子市南大沢4-6

☎ 042-675-9931

FAX 042-675-9050